

連結グループに実益をもたらす 「現場力」を活かした 管理会計のしくみづくり

パート I 業績を向上させるしくみになっているか？
管理会計体制の課題と将来像

パート II 自律性や主体性をどう持たせるか？
「組織・人材」に着目した体制構築の考え方

パート III 正しい状況把握には“見える化”が必要
「情報活用」に着目した体制構築の考え方

パート IV “使える”“使えない”“使われ続ける”
「KPIマネジメント」に着目した
体制構築の考え方

江上 聡 (新日本有限責任監査法人)
河野 康由 (新日本有限責任監査法人)
杉山 直毅 (EYアドバイザー・アンド・コンサルティング(株))

市場のグローバル化、顧客要望の多様化など、企業を取り巻く環境がより複雑化してきているなか、事業実態を把握し、業績向上へ導くために経営をサポートするのが管理会計である。しかし、その管理会計のしくみが形式的で効果の出ない、自社の事業特性に合わないものとなっている場合も多いようだ。本特集では、「業績向上を図る」という管理会計の本来的な目的を考慮して、日本企業の特徴に合った「現場力」を活かした管理会計体制について、その考え方をまとめてもらった。特に、連結グループを念頭に置いた第一歩を進めるにあたってのポイントも織り交ぜて解説しているので、参考にいただければ幸いである。